

「激動する日本農業・農村構造－2020年農業センサスの総合分析から－」

第1回 農業・農村の基礎構造の変化と今回センサスでの特徴

農業集落の機能及び諸活動の動向

～農業集落はどのように機能し、活動を行っているのか～

農林水産省農林水産政策研究所 平形和世

農林水産政策研究所 研究成果報告会（2023年12月19日）

目次

1 はじめに

2 農業集落の動向

3 農業集落の機能・活動

4 地域資源の保全活動

5 おわりに

1 はじめに (1)

- 我が国の農業集落は、農業生産面だけでなく農村生活面とも深く関係しており、近年は集落営農組織の組織母体や日本型直接支払の中心的な実施主体として、農業・農村政策の推進に果たしている役割も大きい（橋詰，2021）。
- しかしながら、我が国では少子高齢化が急速に進展した結果、2008年をピークに総人口が減少に転じており、都市部に先駆けて人口減少や高齢化が進行する農山村では、農地の荒廃や地域経済の低迷、さらには集落の機能の低下が懸念されている。

1 はじめに (2)

- 橋詰 (2015) は、農林業センサスの農業集落調査個票を接続させて作成したパネルデータを用いて、農業集落を構成する世帯数が2000年を境に減少局面に入っていること、特に山間農業地域で集落の小規模化や高齢化が進行していることを明らかにした。また、橋詰 (2021) は、2010年以降も農業集落を構成する世帯数や農家数は減少を続け、小規模な農業集落が増加し、集落人口の高齢化も進展していることを指摘。
- 本分析では、2010年から2020年間の農業集落の動向を捉えつつ、特に2015年から2020年にかけての農業集落の機能や地域資源の保全活動等の実施状況について明らかにする。

2 農業集落の動向（1）

（1）農業集落数

- 2020年での全国の農業集落数は138,243集落。2010年からの10年間でみると、中間農業地域、山間農業地域ともに農業集落数は減少しており、長期的には全国的に減少傾向。

第1表 農業地域類型別の農業集落数の動向

（単位：集落，％）

	農業集落数			増減数			増減率		
	2010年	2015年	2020年	2010-15年	2015-20年	2010-20年	2010-15年	2015-20年	2010-20年
全 国	139,176	138,256	138,243	△ 920	△ 13	△ 933	△ 0.66	△ 0.01	△ 0.67
都市的地域	30,385	29,783	29,616	△ 602	△ 167	△ 769	△ 1.98	△ 0.56	△ 2.53
平地農業地域	34,780	34,715	34,712	△ 65	△ 3	△ 68	△ 0.19	△ 0.01	△ 0.20
中間農業地域	47,367	47,136	47,291	△ 231	155	△ 76	△ 0.49	0.33	△ 0.16
山間農業地域	26,644	26,622	26,624	△ 22	2	△ 20	△ 0.08	0.01	△ 0.08

資料：農林業センサス（2010年，2015年，2020年）。

注．農業地域類型別の農業集落数は，2017年12月改定の農業地域類型区分による。

2 農業集落の動向（2）

第2表 農業集落の平均規模(中央値)の変化

(2) 農業集落の平均規模

- 全国平均での1集落当たりの農家戸数は、2020年には9戸へと2戸減少。
- 農業地域類型別には、すべての地域で減少。
- 関東・東山以外のすべての地域ブロックで減少。
- 全国平均での1集落当たりの耕地面積は、2020年には15haへと2ha減少。

	1集落当たり農家戸数(戸)		1集落当たり耕地面積(ha)	
	2015年	2020年	2015年	2020年
全 国 (算術平均)	11 (14)	9 (12)	17 (33)	15 (32)
都市的地域	12	10	13	12
平地農業地	14	12	34	33
中間農業地域	10	9	15	14
山間農業地域	7	6	9	8
北 海 道	5	4	106	96
東 北	15	12	33	31
北 陸	10	7	20	19
関東・東山	12	12	21	19
東 海	15	12	14	14
近 畿	15	12	15	14
中 国	9	7	9	8
四 国	10	8	9	8
九 州	10	8	15	13
沖 縄	18	13	28	22

資料: 農林業センサス(2015年, 2020年), 地域の農業を見て・知って・活かすDB.

注. 農業地域類型別の農業集落数は, 2017年12月改定の農業地域類型区分による.

3 農業集落の機能・活動（1）

（1）寄り合いの開催

- 寄り合いを開催した集落割合は、2020年では、2015年から0.3ポイント低下し、2010年と比べると1.1ポイント上昇。都市的地域を除く3地域では、全国平均と同様僅か低下傾向。
- 1集落当たりの寄り合い開催回数（全国平均）は、2020年が10.2回と僅か減少。

第3表 寄り合いを開催した農業集落数割合（農業地域類型別）

	寄り合いを開催した集落割合			1集落当たりの寄り合い開催回数 (回)		
	2010年	2015年	2020年	2010年	2015年	2020年
全 国	92.5%	93.9%	93.6%	10.5	10.7	10.2
都市的地域	87.9%	90.5%	90.7%	10.8	11.0	9.9
平地農業地域	96.2%	97.6%	97.3%	12.8	13.0	11.1
中間農業地域	94.1%	94.8%	94.4%	11.2	11.3	10.2
山間農業地域	90.2%	91.4%	90.5%	9.9	9.9	9.2

資料：農林業センサス(2010年, 2015年, 2020年)。

注(1) 農業地域類型別の農業集落数は、2017年12月改定の農業地域類型区分による。

(2) 2020年の「1集落当たりの寄り合い開催回数」は、回数区分の中位数から算出した。

3 農業集落の機能・活動（2）

（2）寄り合いの議題

- 5種類以上の議題について寄り合いを開催した集落が過半。
- 年間の寄り合い開催回数が多いほど議題種類数が増える傾向。 少ない集落では、取り上げられる議題が限定。

第4表 議題種類数別の寄り合い開催集落数割合

			開催なし	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類以上
全	国	2015年	6.1%	3.0%	6.7%	11.9%	16.8%	20.9%	34.6%
		2020年	7.1%	3.8%	8.5%	13.2%	17.0%	19.9%	30.5%
年間寄り合い開催回数規模別	年1～2回	2015年	0.4%	20.0%	27.2%	22.6%	16.6%	8.9%	4.3%
		2020年	3.2%	17.9%	26.5%	22.4%	15.8%	9.0%	5.2%
	年3～5回	2015年	0.0%	3.5%	12.5%	23.4%	25.8%	21.2%	13.7%
		2020年	0.4%	3.4%	12.4%	22.5%	24.6%	20.9%	15.9%
	年6～11回	2015年	0.0%	0.8%	4.0%	11.9%	21.5%	27.9%	34.1%
		2020年	0.2%	1.1%	4.2%	11.3%	20.4%	27.5%	35.3%
	年12～23回	2015年	0.0%	0.3%	1.8%	5.9%	13.7%	24.5%	53.9%
		2020年	0.3%	0.7%	2.6%	6.9%	13.5%	23.5%	52.6%
	年24回以上	2015年	0.0%	0.1%	0.4%	2.0%	6.2%	16.2%	75.1%
		2020年	0.3%	0.4%	1.1%	3.1%	8.1%	15.4%	71.6%

資料：農林業センサス(2015年, 2020年)。

注(1) 分析対象の農業集落数は137,017集落である。

(2) 寄り合いの議題種類数は、2015年と2020年の両センサスで共通して調査された7議題を対象とした。

3 農業集落の機能・活動（3）

第5表 環境美化・自然環境の保全活動の実施状況別集落数割合

（3）諸活動の実施状況：
環境美化・自然環境の保全

- どの地域類型においても、多くの農業集落が単独もしくは他の集落と共同で活動。
- 小規模な集落ほど活動が行われていない集落数割合が高まる傾向だが、他の集落と共同で取り組むことで活動維持が示唆。

			地域の取組として活動が行われている			活動が行われていない	
			単独の農業集落で活動	他の農業集落と共同で活動	共同実施率		寄り合いの議題あり
全	国	2015年	56.1%	25.2%	31.0%	18.7%	-
		2020年	57.3%	22.6%	28.2%	20.1%	3.2%
農業地域類型別	都市的地域	2015年	50.4%	23.2%	31.5%	26.4%	-
		2020年	50.5%	20.7%	29.1%	28.7%	3.6%
	平地農業地域	2015年	61.4%	24.2%	28.3%	14.4%	-
		2020年	61.6%	24.8%	28.7%	13.6%	2.5%
	中間農業地域	2015年	56.7%	26.9%	32.2%	16.4%	-
		2020年	58.9%	23.3%	28.4%	17.7%	3.3%
	山間農業地域	2015年	54.6%	25.3%	31.7%	20.1%	-
		2020年	56.5%	20.4%	26.5%	23.1%	3.6%
農家戸数規模別	4戸以下	2015年	44.1%	26.6%	37.7%	29.3%	-
		2020年	46.0%	20.8%	31.2%	33.3%	4.4%
	5～9戸	2015年	52.4%	29.1%	35.7%	18.4%	-
		2020年	56.7%	25.1%	30.7%	18.2%	3.3%
	10～14戸	2015年	56.6%	27.1%	32.4%	16.2%	-
		2020年	60.9%	24.0%	28.3%	15.2%	2.7%
	15～19戸	2015年	60.4%	24.7%	29.0%	14.8%	-
		2020年	63.3%	23.2%	26.8%	13.5%	2.7%
	20戸以上	2015年	68.0%	19.1%	22.0%	12.9%	-
		2020年	67.9%	20.0%	22.8%	12.1%	2.3%

資料：農林業センサス(2015年, 2020年), 地域の農業を見て・知って・活かすDB.

注(1) 分析対象の農業集落数は137,017集落である.

(2) 農業地域類型別の農業集落数は, 2017年12月改定の農業地域類型区分による.

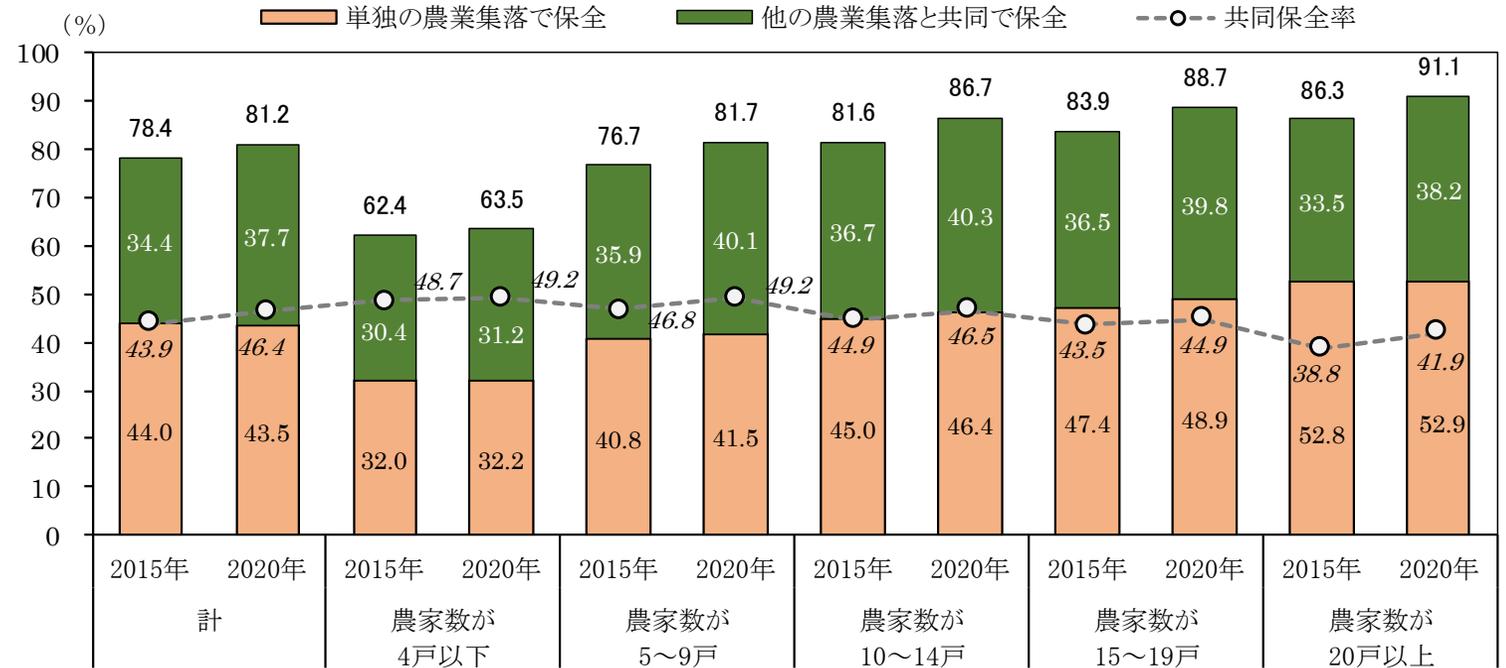
(3) 「共同実施率」は, 活動が行われている集落のうち, 他の農業集落と共同で活動した集落の割合.

(4) 「寄り合いの議題あり」は, 寄り合いの議題とはなったが活動が行われなかった集落が分析対象集落全体に占める割合.

4 地域資源の保全活動（1）

（1）農業用排水路の保全状況（農家戸数規模別）

- 農業集落内の農家戸数が少なくなるにつれて、単独で活動する割合が低くなる一方、共同実施率が高まる。
- 他の集落と共同で取り組むことで、保全活動が維持されていると推察。



第1図 農業用排水路を保全している農家戸数規模別の集落数割合

資料: 農林業センサス(2015年, 2020年), 地域の農業を見て・知って・活かすDB.

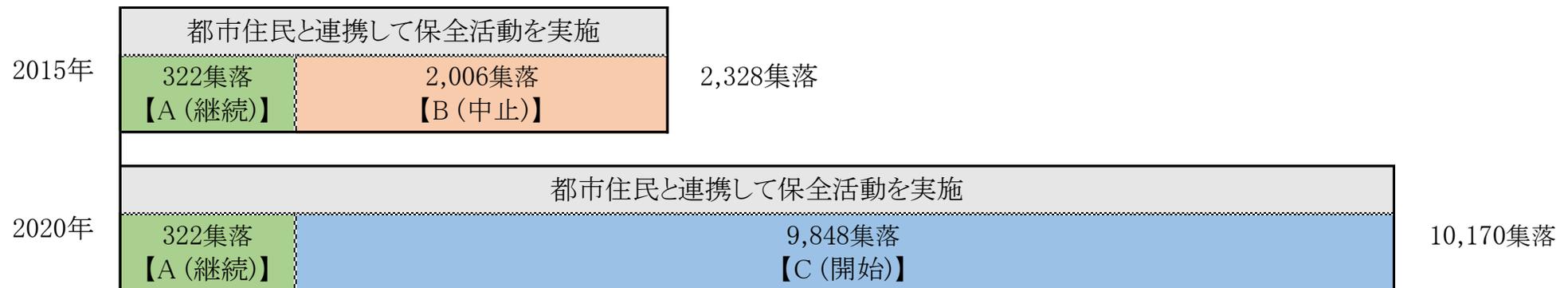
注(1) 分析対象の農業集落数は137,017集落である.

(2) 「共同保全率」は、保全をしている集落のうち、他の農業集落と共同で保全した集落の割合.

4 地域資源の保全活動（2）

（2）農業用排水路の保全状況（都市住民との連携）

- 2020年の都市住民と連携して農業用排水路の保全活動を行った集落数は、2015年に比べて4倍以上と大きく増加。しかしながら、2015年、2020年ともに連携して実施した集落は僅か322集落。



第2図 農業用排水路の保全において都市住民と連携している農業集落数の推移

資料: 農林業センサス(2015年, 2020年).

注(1) 分析対象の農業集落数は137,017集落である.

(2) 【A（継続）】は、2015年、2020年とも都市住民と連携して保全活動を実施した集落.

(3) 【B（中止）】は、2015年には都市住民と連携して保全活動を実施していたが、2020年は実施しなかった集落.

(4) 【C（開始）】は、2015年には都市住民と連携して保全活動を実施していなかったが、2020年は実施した集落.

5 おわりに（1）

- 今回のセンサスでも農業集落は全国的に縮小傾向にあり，1集落当たりの農家戸数（中央値）も減少。中間農業地域で9戸，山間農業地域では6戸と，どちらも10戸を下回った。
- 農業集落における寄り合いの開催状況については，寄り合いを開催した集落数割合に大きな変化はなかったが，1集落当たりの寄り合い開催回数が減少し，開催回数が少ない集落では取り上げられる議題の数も限定されてきていることが明らかになった。

5 おわりに（2）

- 寄り合いの議題に対応した活動の実施状況を、環境美化・自然環境の保全についてみると、農家戸数規模が小さくなるにつれて単独の農業集落で活動する割合が低くなる一方で、共同実施率が高まった。
- 農業地域類型や農家戸数規模別にみても、活動が行われていない農業集落が多いところと少ないところの違いがみられたが、活動が行われていない割合が高い小規模集落などでは、他の農業集落と共同で取り組むことにより活動が維持されていることが示唆された。
- しかしながら、寄り合い議題に取り上げられていても活動が行われていない農業集落も一定程度存在しており、今後の経過を注視する必要があるだろう。

5 おわりに（3）

- 地域資源の保全活動については、全般的に、他の農業集落と共同で取り組む集落や都市住民やNPOと連携して保全を実施する集落が増加する傾向みられた。
- 特に、農家戸数が少ない小規模集落ではその傾向が顕著であり、集落の縮小・高齢化に対応した広域的な地域活動への転換が進んでいる様子もうかがえた。
- 農業集落数の減少や、とりわけ山間農業地域での集落の小規模化や集落機能の低下は否めないが、小規模な農業集落では他の農業集落と共同で集落活動や地域資源保全活動を実施しており、都市住民との連携も拡がりつつある。こうした取組を今後も継続・発展させ、新しい人の流れにつながっていくことが期待される。

引用文献

- 橋詰登（2015）「人口減少下における農業集落の変容と将来展望—集落構造の動態分析と存続危惧集落の将来予測—」，農林水産政策研究所『農村の再生・活性化に向けた新たな取組の現状と課題—平成24～26年度「農村集落の維持・再生に関する研究」報告書—』，農村再生プロジェクト（集落再生）研究資料.
- 橋詰登（2015）「農業集落の小規模・高齢化と脆弱化する集落機能 —農業集落の動態統計分析と将来推計から—」『農業問題研究』47（1）.
- 橋詰登（2021）「農業集落の変容と将来予測に関する統計分析—集落構造の変化と西暦2045年の農業集落の姿—」，農林水産政策研究所『農山村地域の人口動態と農業集落の変容—小地域別データを用いた統計分析から—』，農業・農村構造プロジェクト【農村集落分析】研究資料.